

インド・サリスカ日蝕記

田崎 卓

コプティク星座館のツアーでインドのサリスカにて日蝕観測を行ないました。

今回の日蝕はインドから東南アジアにかけてと比較的日本人から行きやすい地域を通るため多くのツアーが乱立しましたが、私はツアーを決める際晴天率を第一に、そして日蝕の前日に観測地に入れる事を条件にしてこのツアーを選びました。このような訳で '91年のメキシコ、昨年のペルーそして今回と3回すべて観測に成功しました。

ツアーは4コースあわせて約150人。私の参加したAコースとBコースは10月22日、最初の予定より6時間遅れて成田を飛び立ち、ニューデリーのホテルに着いたのは10月23日午前1時でした。関空発のDコースはさらに遅れて、ホテルに着いたのは4時頃だったそうです。Cコースは既にホテルについていたのでこれですべてのコースが揃いました。数時間後の午前5時、タージ・マハールのある町アグラまで特急に乗るためホテルを出発しました。特急では読売旅行と広電観光のツアーと一緒に、2/3が日本人旅行者で占められていました。午前中タージ・マハールとアグラ城を見学し、昼食後観測地であるサリスカへバスで向かいました。サリスカまで170km、明るいうちに観測地について下見をする予定でしたが、当日はヒンズー教の神様の一人ラクシュミーの祭りで道路沿いの村の道が混雑していたので日没過ぎて到着しました。

サリスカはニューデリーの南西150km程にある村で、鳥獣保護区にもなっています。観測地選ばれたのは宿泊先のホテル「サリスカパレス」からバスで30分程移動した場所で、ツアーで畑を借り切って事前に固めてもらっていました。またホテル自体も皆既帯にはいるので、ここで30人程が観測をしました。

日蝕当日の夜明け前も雲1つ無い素晴らしい星空でした。赤道儀のセットをする人や星空を見る人は2時半に出発しています。私も旅行前は第一便に乗ろうと思っていましたが、前日のバスでの移動と睡眠不足で疲れていたため6時発のバスにしました。観測地に到着するとすでに東側にずらりと望遠鏡の列ができていました。祭りの翌朝というのに地元の人もすでに数組、道端で珍しそうに我々を見物していました。この時も曇り。 「今日は大丈夫だね。」という会話が交わされていましたが、去年のペルーで快晴だった空が日蝕時には雲が広がったという経験がありまだ安心できないと思っていました。ですが食が進んでも仇役の日蝕雲が出る様子も無く、私の心配は杞憂のようでした。

皆既が近づくとかなり気温が下がってきました。同じツアーの方の「吐く息が白かった。」という話も後に聞きました。地元の見物人は我々の後ろ側にいたために何をしているのかは見えませんが、皆既が近づくとつれ騒ぎが大きくなってこちらも緊張が高まってきました

た。第二接触の5分程前からシャドウバンドが見え始めました。模造紙を1枚は地面に置き、もう1枚は太陽光線とほぼ直角になるように置いていましたが、こちらの方が地面に置いたものよりはっきりと見えました。UT3:03、第二接触。接触方向に月の谷があるため太陽の光が消える前にコロナが見えました。双眼鏡で眺めているうちあっという間の第三接触。これもまた月の深い谷があったため、鋭いひとすじの光が刺して皆既が終わるというみごとなものでした。

皆既が終わっても忘れてならないのがシャドウバンドです。私が見ていたところUT3:11までシャドウバンドが見えていました。これだけよく見えているのでしたら速度や移動方向などを記録する準備をしておけばよかったと思います。

観測を終えた人が自分の望遠鏡や双眼鏡を持ち寄って地元の人に開放しました。学校の先生や日蝕の原理に詳しい子供も来ていました。現地のツアーガイドさんがよかったのか、日蝕の初めから終わりまで混乱はありませんでした。雲も無く日蝕天気階級でも当然の4。今回の日蝕は皆既時間を除けば（これはしょうがない？）完璧な観測条件だったと思います。第四接触後、残っていた人達で記念写真を撮ってからバスに乗り込みました。我々のいた観測地はもう、畑に戻すための準備が始められていました。